

「立場」や「役割」とは何か

今日は皆さんと「立場」や「役割」とは何かを考えたいと思います。「立場」というのは文字どおり立っている場所のことです。私はステージに、皆さんは体育館のフロアに立っています。また「立場」というのは「ものの見方や考え方」という意味もあります。例えば、「医者立場から言わせてもらえば・・・」とか、「それについては、私は賛成の立場です。」などと使いますね。また「それでは私の立場がなくなります」という場合の「立場」は、面目という意味です。もう一つ「立場」には「その人が置かれている地位や境遇」という意味もあります。例えば、今ここでは、皆さんは生徒という「立場」であり、私たちは教師という「立場」です。しかし、1日の間に私たちは立場をコロコロ変えながら生きています。学校では皆さんは生徒、家に帰って親の前では子供、きょうだいの前では姉、妹、兄、弟、爺ちゃんや婆ちゃんの前では孫、叔父ちゃんや叔母ちゃんの前では姪や甥、部活動では先輩や後輩、正門を出ると世間からは皆さんは口加高校生、外国に行くと皆さんは日本人。そんなことは全く意識せずに生活していると思いますが、実はこんなにいろいろな立場を変えながら生きているんですね。そして、それぞれの立場に応じて考えたり、行動したりしているんです。言葉遣いでも親やきょうだいに対する言葉遣いと先生に対する言葉遣いは違うはずですよ。またそれぞれの立場によって見えるものも違ってきます。例えば、私が立っているところはステージ上で皆さんの方を向いている。皆さんは体育館のフロアからステージの方を向いて立っている。面白いですね。同じ体育館にいるのに立っている場所や向きによって見えているものが違うんですね。ということは生徒と先生、子供と親も「立場」が違うので、それぞれが違うところから違うものが見えています。ですから「立場」が違っていると、そこには誤解や摩擦や反発が起きてくるんですね。「大人は自分のことを何も分かっていない」と思うことがあるかもしれませんが、そうではないんですね。親も先生も皆さんのことをよく分かっているんです。生徒や子供という「立場」にいる皆さんに、先生や親は大人という「立場」から教えたり、アドバイスをしたり、時に叱ってくださっているということをお頭の片隅に置いておいて欲しいんです。自分とは違う「立場」の人が自分に見えていないものを教えてくださっているんです。大人の言うことに反発して拒絶して生きていく人と、素直に大人の言葉を心に沁み込ませる人、どちらが成長していけるでしょうか。逆に、私たち大人が見えていないものを皆は見えています。だから、口には出されないと思いますが、生徒から先生たちも学んでいるんです。親も子どもから学んでいるんです。「立場」が人を育てると言います。皆さんもいろいろな「立場」に立つ中で、無意識のうちに成長しているということです。

次に「役割」とは何でしょうか。「役割」とはその人に割り当てられた任務や役目のことです。私たちは同じ「立場」にいる仲間内では、それぞれに役目を割り振って学校生活を送ったり、仕事をしたりしています。生徒会長とか副会長という「役割」を担っている人もいますし、先ほど学級委員長や文化ボランティア委員に任命した皆さんもそれぞれの「役割」を担います。掃除区域も分担があって、それぞれの区域をきれいにしなければならな

いという「役割」を皆さんは担っています。日直とか黒板消し係りもまた「役割」です。部活動では部長や副部長などの「役割」の人がいるから活動がうまくいくんです。このようにそれぞれがそれぞれの「役割」を担って、その責任を果たすので、学校も家庭も社会もうまく回っていくんです。「役割」は、手を挙げて引き受けることもあるでしょうし、順番に回ってくることもあります。また人から頼まれることもあります。人は「役割」が回ってくることを嫌がるんです。日本語では「損な役回り」と言いますが、「得な役回り」とは言いません。しかし、役が回ってくることは損なんですか。役回りも縁です。自分にこんな役が回ってきて、きついか、面倒くさか、大変か、と思うのか、それとも面白そうか、やってみようか、自分が成長できるはずだ、と前向きにとらえるか、どちらがより良い人生が送れるでしょうか。

「立場」でも「役割」でも未来永劫続きません。皆さんが高校生という「立場」はわずか3年です。私の口加高校の校長という「立場」も未来永劫続きません。そういう意味では、立場や役割は一過性のものなんです。私は立場、役割、肩書きといったものはジャケットみたいなものだと思っています。一生着つづけるものではないということです。必ず脱ぐ日、すなわちその立場や役割や肩書きが終わる日が来るということです。私たちの命と同じです。終わりがあるから人はより良く生きようと努力できるんです。「立場」や「役割」も終わりがあると知れば、今そこに全力を尽くし努力できるんです。このジャケットを脱いだら、切る前よりも一回りも二回りも成長した自分がいます。そしてまた次のジャケットを着ていく。この繰り返しで私たちは成長し、生きていくのです。皆さんは、高校生というジャケットを脱ぐ日が必ず来ます。終わりがあるから目の前の勉強や部活動に一生懸命になれるんです。しかし、勉強も部活動も中途半端でやっている人、楽しんでのん気に何とかなるさと、構えている人。そういう人は後悔する日が必ず来ます。それは高校生というジャケットを脱いだ時です。何でもっともしっかり勉強しなかったのか、何でもっと一生懸命に部活動の練習に打ち込まなかったのか、高校生のジャケットを着ている時は誰も気づかないんです。だから、もし怠けていたら、先生たちが厳しく叱ってくださるんです。親が口うるさく言ってくださるんです。

今日から生徒会委員というジャケット来た皆さん、全力で自分の「役割」を全うしてください。